

第73回全日本女子ホッケー選手権大会 第1日

開催日時 11月23日(祝) 会場 親里ホッケー場 天候 雨

< B組 >

ソニーHC BRAVIA Ladies	12	$\left(\begin{array}{c} 7-0 \\ 5-0 \end{array} \right)$	0	立命館大学
勝点 3 1勝			勝点 0 1敗	
	7	PC	0	
	28	シュート	0	

得点	ソニー → 1分中島、6分中島、25分村上、27分前田、30分飯村、32分石田、34分佐藤、39分三浦、41分飯村、43分及川、52分村上、61分中島
戦評	ソニーのセンターパスにより試合が開始された。開始早々、ソニーの韓国代表のFW金は巧みなドリブルでエンドラインを回り込みゴール前につめたFW中島にパス、中島はゴール左下に冷静に決め先制。猛攻を仕掛けるソニーは、またも中島がドリブルでサークル内に切り込みリバースシュートをゴール左下に決め2-0とする。その後も攻め続けるソニーは前半24・27・29・31・33分と立て続けに得点し、圧倒的な差をみせつけ、前半で勝負を決めた。 後半もソニーは終始立命陣内で試合を展開。結局、12-0の大勝でソニーは7連覇にむけ好スタートをきった。

テクニカルオフィサー	今庄充世	アンパイア	相馬知恵子
ジャッジ	我妻活美、西上英雄		山田恵美

< A組 >

グラクソ・スミスクリン	4	$\left(\begin{array}{c} 1-1 \\ 3-0 \end{array} \right)$	1	天理大学
勝点 3 1勝			勝点 0 1敗	
	8	PC	2	
	16	シュート	5	

得点	グラ → 11分若柳、45分神内、50分柴田、58分阿久津 天理 → 34分高木
戦評	立ち上がりから激しい攻防が続くなか先制をしたのはグラクソ。MF柴田がキレのあるドリブルでサークル内に突入し、シュート。天理GK景山のファインセーブも好位置にオーバーラップしたMF若柳がリバウンドを押し込み先制する。勢いにのるグラクソは前半23・26分にPCを獲得。しかし、得点に繋げることが出来ずチャンスを活かせない。カウンター攻撃を仕掛ける天理は33分、MF遠藤がセンターライン付近から早いリスタートでサークルトップに構えていたMF高木に繋ぎ、高木はゴール左上に強烈なヒットシュートを決め1-1で前半を折り返す。 後半も、一心一体の攻防が続くなか、45分グラクソは若柳のセンタリングをFW神内がダイビングしながらのタッチシュートで決め逆転に成功する。その後も、勢いにのるグラクソは50・58分に高い個人技からの展開で得点を重ね4-1と天理を突き放す。追いつきたい天理は、正確なパス回しでグラクソゴールに迫るが得点することが出来ずそのまま試合終了。

テクニカルオフィサー	中野典子	アンパイア	安岡裕美子
ジャッジ	松下正寿、上城智佳子		森本道理

< B組 >

南都銀行	1	(0 - 1)	1	山梨学院大学
勝点 1			1 - 0		勝点 1	
1分					1分	
	2		PC		1	
	5		シュート		2	

得点	南都→ 70分佐々木
	山梨→ 21分五島
戦評	<p>山梨のセンターパスにより試合が開始された。終始落ち着いた試合展開をする両チームだが、先にチャンスを得たのは山梨。山梨は13分にPCを獲得するが決めることが出来ない。立て続けに攻める山梨は20分、DFの伴田の狙い澄ましたサークル内へのタテパスを五島が見事なタッチシュートでゴール左下に決め、先制する。南都も爲藤を中心に反撃を試みるが、終始山梨はペースを崩すことなく試合を進め、前半を終了。</p> <p>後半も一進一退の攻防が続き両チームとも互いのゴール前まで迫るが、攻めきることが出来ない。山梨は17分にPCを獲得。しかしチャンスを活かせずじわじわと時間は経過。同点に追いつきたい南都は植田、大塚、爲藤らを軸に猛攻を仕掛け、流れを引き寄せるが、山梨も堅守で前半の1点を守りにかかる。しかし、南都は終了間際、植田が右サイドから回り込み佐々木にラストパス。ゴール前にいた佐々木が落ちついて値千金の同点ゴールを決め1-1に追いつき、引き分け勝点1を獲得した。</p>

テクニカルオフィサー	今庄充世	アンパイア	根岸郁美
ジャッジ	西松孝治、飯田育子		我妻順子

< A組 >

コカ・コーラウエスト	4	(1 - 0)	0	東海学院大学
レッドスパークス			3 - 0		勝点 0	
勝点 3					1敗	
1勝	4		PC		1	
	9		シュート		5	

得点	コカ→ 15・50・52分新井、43分駒澤
戦評	<p>コカ・コーラのセンターパスにより試合が開始された。終始コカ・コーラのペースで進み試合が展開される。前半15分FW加藤がエンドラインをドリブルでえぐっていきサークルの中においたFW新井にパス、それをゴール左下に冷静に決め先制する。この後もコカ・コーラの攻撃が続く東海は中々攻めることが出来ない。しかし、東海は徐々にペースをつかみコカ・コーラゴールに迫るが、DF朴を中心とした堅い守りに阻まれ得点することが出来ずそのまま前半を折り返す。</p> <p>コカは42分にPCを獲得しチャンスを得る。DF李の狙いすましたパスを日本代表の駒澤がタッチシュートをゴール右下に決め、2-0とする。反撃をする東海は56分にPCを獲得。しかしコカ・コーラのDFに阻まれ得点することが出来ない。追加点が欲しいコカ・コーラは59分、ゴール前でパスをうけたFW新井が巧みなドリブルでキーパーをかわしゴール右下にシュートを決め3-0とする。コカは62分にもFW新井が得点し(ハットトリック)試合を決めた。結局試合は、今年3冠を狙うコカ・コーラが勝利した。</p>

テクニカルオフィサー	中野典子	アンパイア	壽山由樹
ジャッジ	松下正寿、上城智佳子		高橋英行